



ZAO GEOPARK

Zao Geopark

蔵王ジオパーク

蔵王ジオパーク推進協議会



Gate to the Earth is Open.

蔵王から、地球のとびらをひらく旅へ。



大地はおぼえている。

私たちは、そこから何を学べるだろう。



五色岳（御釜）



蔵王の樹氷



七日原扇状地

目の前に広がる景色は、過去の地球の活動が生み出した「大地の遺産」とも呼べるもの。生き物の営みや人々のくらしは、大地に支えられて発展してきました。

大地は、過去に起こったことをおぼえています。地球規模の環境の変化があったこと、自然災害のこと、かつて住んでいた生き物や、この土地でたくましく生きた人々のこと…。

大地をよく観察し、地球の活動のしくみを知ることは、人と地球が共存し続けられる「持続可能な社会」を目指すヒントになります。

景勝地・御釜で知られる蔵王山の東麓に広がる蔵王ジオパーク地域には、火山活動によって形成された大地とその上に育まれた自然、そして、火山や自然と共に生活してきた人々の歴史が刻まれています。

今あるものを、わたしたちだけが利用し楽しむのではなく、将来の人々にも残していけるように。それらを守りながら活用することで、蔵王の景色から地球全体のことを考えられる人を育てるために。

宮城県蔵王町は、ジオパークの活動を通して、持続可能な地域社会の実現を目指します。



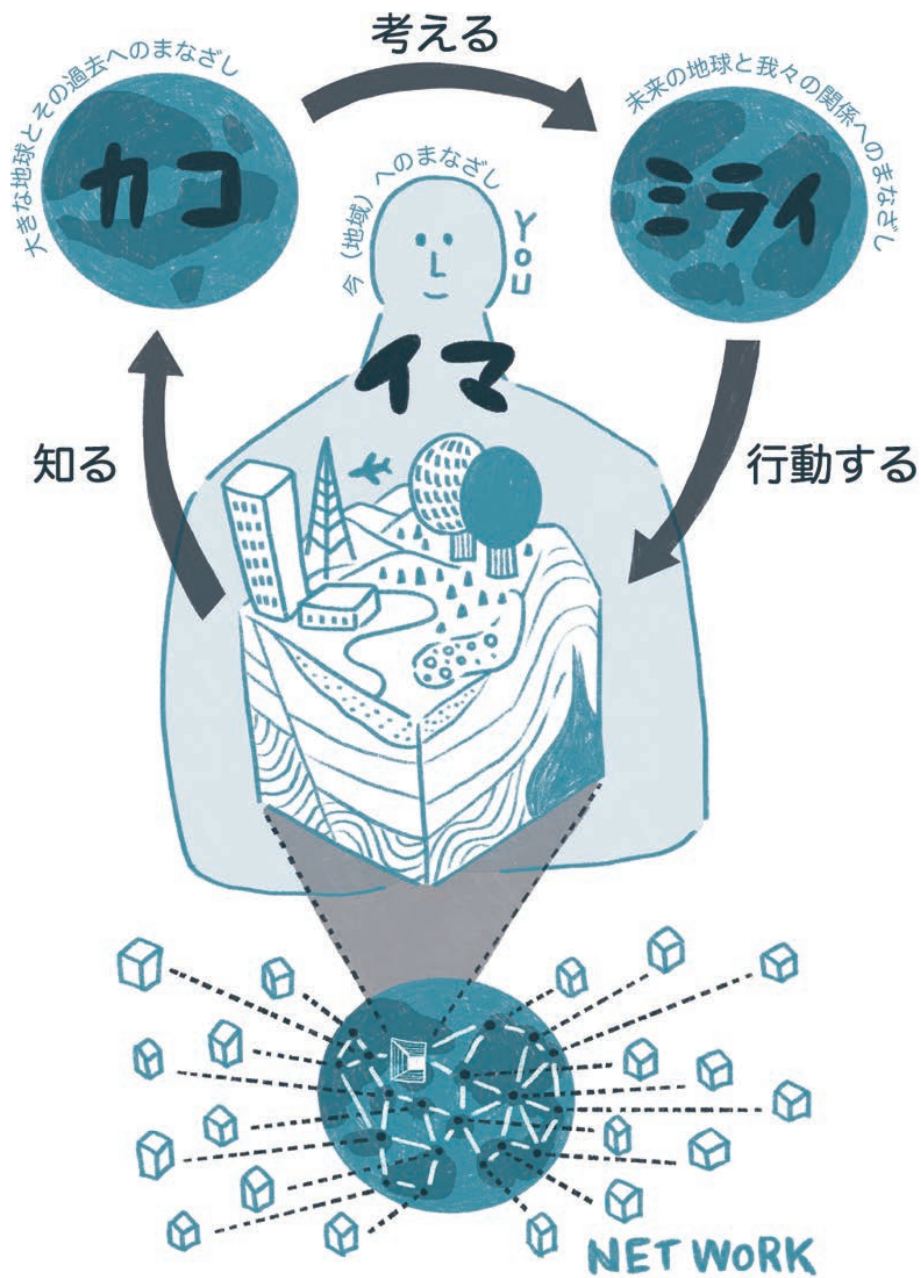
澄川・濁川合流点



青麻山



円田盆地



引用：日本ジオパークネットワークホームページより

SaSaoka Miho

ジオパークとは？

ジオパークとは、過去の地球の活動によって生み出された景観が大切に守られ、教育や持続可能な開発に活用されている地域のこと。形を変え続ける大地を通して地球の歴史を学び、人と地球が共存し続けられる未来を目指して活動しています。

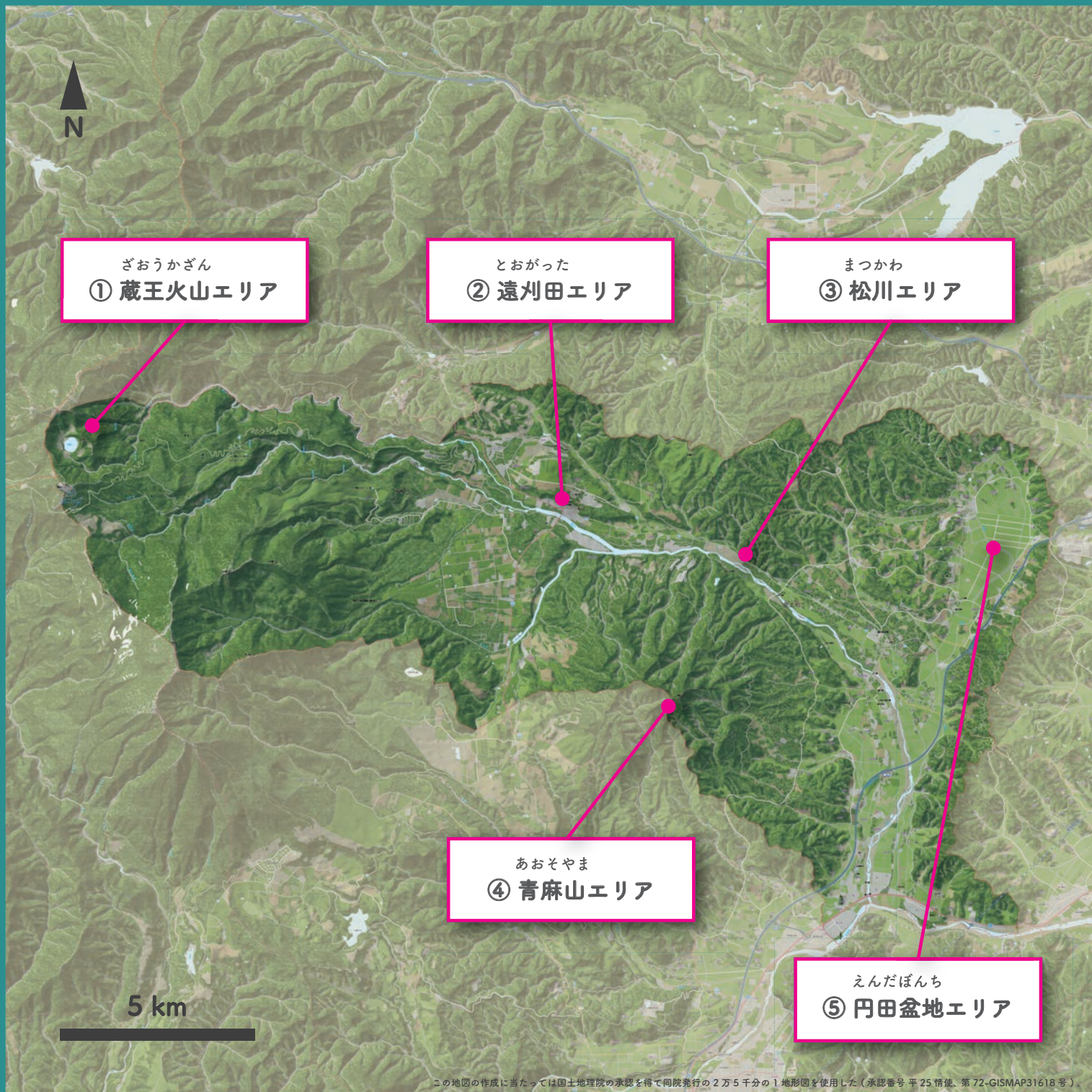
日本ジオパークは 47 地域（うちユネスコが認定した世界ジオパークは 10 地域）あり、それぞれが地域の特色を生かした取り組みを行っています。

ジオパークの活動



のぞいてみよう！全国のジオパーク

日本ジオパークネットワークのホームページでは、日本全国のジオパークの特徴や、ジオパークな旅の楽しみ方が紹介されています。



ざおうかざん
① 蔵王火山エリア

とおがった
② 遠刈田エリア

まつかわ
③ 松川エリア

あおそやま
④ 青麻山エリア

えんだぼんち
⑤ 円田盆地エリア

蔵王の大地の遺産 — 火山との共生

蔵王ジオパークには、活火山である蔵王山をはじめ、短期間で活動を休止したと考えられる青麻山、巨大噴火の名残をとどめる円田盆地の3つの火山があります。

これらの存在は、たとえば水や土壌の性質に作用し、周辺の生態系や山麓の人々の暮らしに大きな影響を与えてきました。

地域内には保全対象（サイト）が点在しています。蔵王ジオパークでは、これらのサイトをまとめ、5つのエリアを設定しています。



もっと詳しく知りたい方へ

ホームページからサイトの詳細をまとめた冊子をダウンロードできます。



◀ 冊子はこちら（日本語版のみ）

ジオサイト候補地検討報告書

「火山との共生 ～火山とともに生きる人々と火山の恵み～」



蔵王ジオパーク

面積：約 153 km²（宮城県蔵王町を主とする）

人口：10,869 人（2025 年 2 月 28 日現在）

地域内の標高差：約 1,800 m

① 蔵王火山エリア

火を噴く大地と生きる — 火山と人々の暮らし

活火山・蔵王山は、歴史時代にも多くの活動記録を残しています。火口湖・御釜とその背後の五色岳は最も新しい時期の火山活動によって形成されました。

山頂周辺では、高山植物の群生地や樹氷のもととなるアオモリトドマツ林が見られますが、環境の変化や虫害などの影響を受けており、保全の取り組みが続けられています。

人々にとって蔵王山は信仰の対象でもありました。祈りの形は時代と共に変わりながら現在まで引き継がれており、大地と人々の繋がりを感じられるエリアです。



② 遠刈田エリア

山の暮らしと温泉 — 温泉と高原の産業

蔵王山東麓の遠刈田温泉と七日原高原^{なのかはら}を中心とする遠刈田エリアは、蔵王火山と山麓に暮らす人々の営みが接するエリアです。

温泉が湧き出す遠刈田では段丘面上に温泉街が形成され、江戸時代の後半には庶民による蔵王参詣の拠点となり、近代以降は蔵王の山岳観光の拠点として賑わってきました。また、蔵王山麓の豊かな森林は古くから木地師（木材を使って盆や椀、こけしなどを作る職人）たちの活躍の舞台となり、開拓の進んだ現在は酪農や高原野菜の栽培が行われています。



遠刈田温泉・神の湯



七日原扇状地



蔵王ハートランド



遠刈田こけし

③ 松川エリア

ふたつの川の物語 – 火山山麓の災害と恵み

南蔵王・芝草平付近を水源とする清流「澄川」^{すみかわ}と、現在も火山活動が続く御釜周辺を水源とする「濁川」^{にごりがわ}。対照的なふたつの川は、遠刈田地区で合流して「松川」となり、地域の中心部を流れています。

火山由来の成分を含む濁川の流入により農業用水に不適で、そのうえ水害を繰り返す松川と暮らしていくため、人々は用水の確保や砂防工事に力を注ぎました。現在では、澄川を水源とする農業用水が田畑を潤し、松川が形成した段丘面上では梨や桃などの果樹栽培が行われています。



段丘面上で行われる梨・桃・りんごなどの果樹栽培



澄川・濁川合流点



疣岩円形分土工



松川の河岸段丘

④ 青麻山エリア

眠れる山から祈る — 自然神信仰の拠点

蔵王山の東に位置し柔らかな稜線を見せる青麻山。約40万年前に形成された小規模な成層火山で、比較的短期間で活動を休止したと考えられています。

蔵王山を望む青麻山頂にはかつて蔵王山を神として信仰する刈田嶺神社^{かつたみね}が鎮座し、その後の時代には蔵王山を修行の場とする修験者たちの拠点となりました。

また、蔵王から吹き下ろす季節風（蔵王おろし）を遮る青麻山東麓の穏やかな土地は、気候が寒冷化した時期の縄文人の生活と祈りの場にもなりました。



青麻山遠景



刈田嶺神社（白鳥大明神）



青麻山頂から



青麻山東麓・鍛冶沢遺跡

⑤ 円田盆地エリア

まるい盆地の謎 — 巨大噴火がもたらしたもの

東部に位置する稲作が盛んな円田盆地は、蔵王火山が活動を始める遥か以前、約 370 万年前に巨大噴火によって形成された「白石カルデラ（火山のはたらきによってできたくぼみ）」の名残をとどめる場所です。湖の堆積物である珪藻土が分布することから、かつては大きな湖となっていたと考えられています。

円田盆地では、弥生時代以降の遺跡が数多く発掘されており、稲作に適した盆地の地形が古くから利用されてきたことがわかっています。



晩秋の円田盆地



円田盆地の水田に映る青麻山と蔵王連峰



実りの季節



円田珪藻土露頭

蔵王ジオパークでは、 どんな活動をしているの？

蔵王ジオパークの活動は 2013 年に始まりました。10 年目の節目となる 2023 年、日本ジオパークの新規認定申請にチャレンジしましたが、結果は「認定保留」。その後、審査の際に指摘された課題への対応を進め、2025 年 1 月 27 日に晴れて日本ジオパークに認定されました。

蔵王ジオパーク推進協議会では、ガイド団体による保全活動への参加や支援、地域の小・中・高校と連携した教育活動、地域内外の方を対象としたガイドツアーなどを通して、地域の「大地の遺産」の価値や魅力を発信しています。興味を持った方は、ぜひ参加してみてくださいね！



伝える…ガイドツアーの実施や教育旅行の受け入れ



守る…保全活動への参加・支援



育む…講座・見学の受け入れ



探究する…学術研究の支援



ZAO GEOPARK

ver. 2025.6.10

